Atsuko Kudo
Mail Magazine 209

2015.01.05 ホーリーランド

１ 月２０日～２８日、福島第一聖書バプテスト教会のイスラエル・ツアーに、賛美者として同行させていただきました。佐藤彰先生とガイドの Kyoko さんの素晴らしいメッセージに併せて、この者もいたるところで賛美をさせていただきました。また、ヨルダン川では、3 人が洗礼を受けました。ほんとうに、言葉に言い尽くせぬほどの素晴らしい恵みをいただいた 8 日間でした。溢れる感謝と喜びをもって、写真とともに報告させていただきます。

●イエスラエルに帰国！

20 日夜 8 時過ぎ、時を同じくして、日本からは佐藤彰先生の一行が、そして、私はドイツから、無事テルアビブ空港に到着しました。飛行機がテルアビブ空港に降り立った途端、自分の故郷に帰ってきたような、懐かしい思いが私の内にこみ上げてきました。奇しくも、空港では、ツアーガイドの Kyoko さんが、「イスラエルにお帰りなさい！」と私たちを出迎えてくださいました。

●荒野から（ネゲブ砂漠）

空港からバスに乗り込み、**ネゲブ砂漠**へ。聖書には、「ダンからベエル・シェバまで」という表現が何度か出ています。それは、イスラエルの北から南までという意味です。つまり、ダンは北、ベエル・シェバは南のネゲブ砂漠にあります。

私たちの旅は、このネゲブ砂漠から始まりました。モーセに率いられてエジプトを出たイスラエル人が荒野を通って約束の地に辿り着いたように、福島第一聖書バプテスト教会の皆さんが、震災後、バスと 15 台の車で、流浪の教会としてあちこちを回られたように。

21 日、まず、ネゲブ砂漠の**ベエル・シェバ**（７つの井戸という意味）の遺跡を見学しました。ベエル・シェバはアブラハムやヤコブが住み、主の御名によって祈った特別な場所。また、ハガルとイシュマエルが家を追い

出されてさまよい、神の声を聞いたところです。また、ヤコブも、飢饉のためにヨセフの住むエジプトに下るとき、ここで「必ずこの地に連れ戻す」という神の声を聞きました。

そうやって、ベエル・シェバから、ペトラにも似た渓谷を通り、ツィンの荒野の渓谷に開かれた、美しい「アブダットの泉」に行きました。ツィンの荒野は、民がモーセと水で争った場所、「メリバの水」の場所です。ここで、モーセは、怒りのあまりに神の命令に反して、岩を 2 度も打ちました。神に栄光を帰さなかった、たったその一度の過ちのために、モーセ自身は約束の地に入ることができなくなってしまったのでした。

「荒野」は、「神の声を聞くところ」（荒野はミドゥバール、その本質的な意味は「口」、つまり、神の口から語られることばを聞くところ）。そして、ネゲブの荒野にあるベエル・シェバには井戸が掘られ、いのちの水がある場所、神との交わり、神の祝福の場だったのでした。

「荒野を通らなければ合格しない人生がある。」

確かに、すべてを捨てて、時に強引にすべてをはぎ取られ、時に試みに遭い、何もないところで天を仰いで神の声を聞き、神が湧き出させてくださる祝福の水、いのちの水をいただくところ、それが荒野なのだと思いました。

●悲しみから生まれるもの（マサダ）

22 日、ユダヤ人最後の要塞であった**マサダ**に行きました。マサダとは「要塞」という意味です。AD70 年にエルサレムがローマ軍によって陥落したのち、熱心党員を中心としたユダヤ人 967 人がここに立て籠もりました。しかし 74 年、壕を盛って攻め上ってくるローマ兵の捕虜になるより、自ら命を絶つことを選び、集団自決をしたのです。ここはいつ行っても、深い悲しみを覚えます。**No more Masada!**

このマサダで、私は、何度も故郷を奪われた福島の歴史を聞きました。

「福島」と名づけたのは、会津若松藩のクリスチャン大名の蒲生氏郷（がもううじさと）と言われています。彼は高山右近を通して信仰に導かれました。

蒲生氏郷は幼少時代は織田信長の人質でした。後に信長に才を見出され、家来となりました。しかし本能寺の変の後、豊臣秀吉ににらまれて、東北に飛ばされてしまいました。

しかし、キリシタン大名であった蒲生は、この地を「福島」、つまり「祝福の地」、あるいは「福音の地」と名付けたのではないかと言われています。

福島は一時、藩の人口の３分の１が洗礼を受けてクリスチャンになり、教会も建てられた有数の、キリスト教王国でした。

その後、戊辰戦争によって会津の町はひどい目に遭い、幕末期には、白虎隊の悲劇がありました。しかし、そのような地から、明治学園を創設したクリスチャンの井深梶之助、「八重の桜」の新島八重らが輩出されました。

「神様は悲しみを通して多くの人を救われた。」

どうしてこのような惨事が、と誰もが思った、3.11 の苦しみ、悲しみを通して、今、福島県に多くのクリスチャンが生まれています。私たちは、悲しみに押しつぶされるのではなく、その悲しみを通して成される神のみわざを見させていただきたいと思うのです。福島の荒野に、いえ、福島だけでなく、日本の荒野、イスラエルの荒野、そして私の住むドイツの荒野にも、主が、今日も、活ける水を注いでくださいますように！

●悲しむ者は幸いです（ガリラヤ）

23 日、私たちはガリラヤ地方に向けて北上しました。**カペナウム**は、イエス様が自分の町と呼んだところです。しかし、神に従わなかったので呪われてしまいました。それで、今に至るまで、ここには人が住んでいません。

主が生まれたところだから、育ったところだから、あるいはご自分の町と呼んだから、そこが永遠に祝福の町になるのではないのです。主は信仰を求めておられるからです。

それから、**タブハ**の「**山上の垂訓教会**」を訪問。ここで読まれた山上の垂訓ほど、心に響いたことはありませんでした。**「心の貧しい者は幸いです。」「悲しむ者は幸いです。」**3.11 の大震災に遭ったから不幸になったのではない、今の悲しみは不幸ではない、震災に遭ったから、もっと神に近づけるようになった、もっと神の愛が分かるようになった、悲しんだから、人の痛みが分かるようになった、人々の思いやりに心から感謝できるようになった、十字架の苦しみが分かるようになった、だから、悲しむことは不幸ではない、苦しむことは不幸ではない、いや、祝福なのです、と、福島のみなさんがそうおっしゃいました。

「義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。」（マタイ 5：10）

後藤健二さんのことを思いました。彼もまた、苦しみを超える特別な守りと祝福を主から与えられて、天の御国を得たに違いない、そう確信しています。

●ハティクバ（カイザリア）

カイザリアは、紀元前 2 世紀頃から栄えた地中海沿岸の港町です。ヘロデ大王が海の玄関口としての対面を保つため、大規模な街づくりを行い、ローマ皇帝カイザルの名前を取り、「カイザリア」と名づけられました。

ヘロデ王が造ったローマ時代の**円形劇場**は、直径約 170m の半円形の劇場で、地中海からの風で、音が隅々に響き渡るように設計されています。ここで、イスラエル国歌**「ハティクバ」（希望）**を、日本語とヘブライ語で賛美しました。その場に居合わせたユダヤ人が直立不動で厳粛に耳を傾け、歌い終わると、目を潤ませながら声をかけてこられました。

「ハティクバ」を歌うと、自分がユダヤ人になったような思いになります。ユダヤ人が 2000 年待ち焦がれたイスラエルが 1948 年についに建国された喜びと、主が来臨される時、ここに建てられるメシア王国を思い、胸が熱くなるのです。

ヘロデ王が、ローマに媚びるために、また自分の力を誇示するために、ローマに向かって造った円形劇場。そこで演説するヘロデに、民衆が「神の声だ」と叫んだとき、彼は虫に食われて死んでしまいます。その円形劇場の先にある港からは、パウロや使徒たちが、真実の神を述べ伝えるためにヨーロッパに向けて出航しました。世界宣教は、この港から始まったのです。

神のみわざは不思議です。

そして、2000 年間イスラエルの地を待ち望んで来たユダヤ人が、ホロコーストという大悲劇でほとんど死に絶えたかと思われた 3 年後の 1948 年、イスラエルの国が再建されるとは、一体誰が考えついたことでしょうか。

「ハティクバ」（希望）

我らの胸に

ユダヤの魂が脈打つ限り

ユダヤびとの眼が東の彼方

シオンに注がれる限り

二千年我らがはぐくみ続けた

希望を失うことはない

シオンとエルサレムの地で

自由の民となる希望を

●ゲツセマネ（オリーブの油搾り）

今回の旅行で体験したのは、どんなに大きな罪にも勝るイエス様のご愛でした。

エルサレムの**「ゲツセマネの園」**では、私たちの罪のために、血のような汗を流された祈りを深く覚えました。

オリーブの油搾りは、普通、大きな碾臼（ひきうす）で、3 度搾られるのだそうです。一番搾りは、バージンオイル（or エキストラ・バージンオイル）、二番搾りは、普通のオリーブオイルで食用油に、三番搾りは、ともしび用や貧しい人の食用油に。

しかし、3 番搾りになると、オリーブの種まで搾られ、オリーブは小さく砕かれ、徹底的につぶされた状態になります。イエス様は、ゲツセマネの園で、3 度、祈られました。血の汗を流すほどに。それほどに、私たちの罪は恐ろしく深いものであることを覚えました。その罪のために、イエス様は、骨の髄までご自分を搾り出して祈ってくださったのでした。

●神の小羊（ベツレヘム）

25 日（日）、**ベツレヘム**の**「聖誕教会」**と**「羊飼いの野の教会」**を訪問しました。イエス様は、神の小羊となるために、羊が飼ってあった洞穴で生まれてくださいました。そして、まず、羊飼いたちにその誕生が知らされ、最初にイエス様を礼拝する特権にあずかりました。それは、イエス様が私たちの羊飼いであるからです。そう説明してくれた Kyoko さんの解説に、なるほどと思いました。

「神の小羊に従うとは、自分も神の小羊となって神に捧げること。」

暗闇の力が立ち込める今、自分のいのちをささげてキリストに従うことが、私たちに問われている時代なのだと思います。ああ、主よ、どうか、この弱き者を、愛する兄弟姉妹を、ほんとうのいのちを得るために、最後までキリストに従う者としてください！

イエスは、みなの者に言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。自分のいのちを救おうと思う者は、それを失い、わたしのために自分のいのちを失う者は、それを救うのです。（ルカ 9：23,24）

●エルサレムの平和のために祈れ

これで 5 回目の聖地旅行でしたが、今回ほど、イスラエルへの愛が湧き上がった旅行はなかったと思います。苦しみを経験し、今も通過されている福島第一聖書バプテスト教会のみなさんを優しくその御腕に抱く、主の愛に私も取り込まれ、その同じ愛が、イスラエルに注がれていることを感じました。いや、イスラエルに注がれている同じ愛が、福島第一聖書バプテスト教会の皆さんを包んでくださっていることに気づかされた、と言った方が、正しいかもしれません。

私たちの兄であるユダヤ人の多くは、まだ、イェシュア（イエス）をメシアとして受け入れていません。しかし、1948 年にイスラエルの国が復興し、神の約束、ご計画が着々と成就して来たことを見るのです。

パウロは、ローマ人への手紙の中で、彼の中には大きな痛み、悲しみがあり、同国人（ユダヤ人）のためなら、自分がキリストから引き離されて、のろわれた者となることさえ願いたいと言いました。そして、「子とされることも、栄光も、契約も、律法を与えられることも、礼拝も、約束も彼ら（イスラエル人）のものです。」と証ししています。

アブラハム契約、モーセ契約、ダビデ契約だけでなく、キリストの血潮によって与えられた新約も、ユダヤ人に与えられたものです。私たち異邦人クリスチャンは、イエスを信じる信仰によって、その祝福に加えていただいた者たちです。パウロは、そのことを、野生種の枝である私たちが、本来の枝に交じって接ぎ木され、そのオリーブの根の豊かな養分を共に受ける者とされたのだから、そのもともとの枝に対して誇ってはいけないと、ローマ人への手紙 11 章で語っています。

しかし、多くの教会の父たちは、その祝福がユダヤ民族から教会に移ったものとする神学を打ち立てました（置換神学）。また、長い歴史の間、多くの国々が、教会・キリストの名によってユダヤ民族を迫害してきました。しかし、今、多くのクリスチャンがその間違いに気づき始めています。

すべての祝福の基である契約をアブラハムと結んだ時、神はこうおうせられました。**「あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」（創世記 12：3）**

それゆえ、歴史を見てみると、これまで神の約束の民を迫害した多くの国々はのろいを受けて衰退しました。

エルサレムの平和のために祈れ。
おまえを愛する人々が栄えるように。
おまえの城壁のうちには、平和があるように。
おまえの宮殿のうちには、繁栄があるように。」
私の兄弟、私の友人のために、さあ、私は言おう。
「おまえのうちに平和があるように。」
私たちの神、主の家のために、
私は、おまえの繁栄を求めよう。
（詩篇 122：6～9）

「エルサレムの平和のために祈れ。」それはまず、私たち救われた者たちが、私たちの兄であるユダヤ人の救いのために祈ることだと思います。主が来臨される時、イスラエルはみな救われます。神が彼らの罪を取り除くからです。その日まで、主に覚えられている私たちは、その日が来ることを、証しし続けて行かなければならないと思っています。

主に覚えられている者たちよ。黙りこんではならない。主がエルサレムを堅く立て、この地でエルサレムを栄誉とされるまで、黙っていてはならない。（イザヤ書 62：6 後半～7）

暗闇の力が覆う今、マラナタ！（主よ来てください！）、と叫び祈ります。主が来られる時こそ、神がエルサレムを栄誉とされる時であり、敵が滅ぼされ、私たちの救いが完成される時だからです。

「しかり。わたしはすぐに来る。」アーメン。主イエスよ、来てください。
主イエスの恵みがすべての者とともにあるように。アーメン（黙示録 22：20，21）

～～

●お祈りください

3 月 7 日、「マドリッド日本語で聖書を読む会」の主催で、賛美コンサートをいたします。主がこのコンサートを祝福してくださり、良き伝道のチャンスとなりますようお祈りください。また、もし、マドリッドに知り合いの方がいらっしゃいましたら、どうぞお知らせください。以下、チラシを URL で皆さんにお送りいたします。https://dl.dropboxusercontent.com/u/88436545/20150307Madrid%20Concert.jpg

皆様の上に、主の溢れる恵みがありますように！

Atsuko Kudo